

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500087		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム熱海水口 (2ユニット合同)		
所在地	413-0016 静岡県熱海市水口町2-3-42		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=2290500087-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入所者様一人一人が楽しく笑顔でいられるように、明るい雰囲気を作っています。地域の方との交流を大切に、スタッフ以外のボランティアなどの方々のコミュニケーションで慢性化した感覚をリフレッシュできるように試みています。笑うことは元気になることと考えています。そして、外に出て新鮮な空気と、綺麗な景色を見ることで、あるいは、花の香りをかぐことで、生き生きとした感覚を呼びもどせるように散歩やお買い物などをしています。ストレスのない生活を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年1月の開設では1名の契約から満室なるまで半年かかりましたが、今では地域から「あそこはいいよ」と声が挙がるまでに知名度のある事業所となりました。先ずは町内会に加盟して「(理念)地域とのふれあいを大切にします」に取り掛かり、回覧板も廻ってきています。祭りでは神酒所への寄附をおこない、タクシー会社には事業所まで迷わないように案内をお願いしました。「楽しく暮らせる処にしたい」との想いは玄関先のグループサウンズでの出迎えソングと掛け時計や和箏箏で構成されたレトロ空間、ホーム長自らの歌やギター演奏で日々実現させ、介護度が3から1へと変化した利用者をはじめ、症状向上が確実にみられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時、運営理念の唱和をしているが、出来ていない日もある。	開設の第1歩として、理念「地域とのふれあいを大切にします」に取り掛かり、町内会への加盟から回覧板も廻ってきています。タクシー会社には事業所まで迷わないように案内をお願いし、祭りでは神酒所に寄附しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩やなじみの店に、買い物に行くなどしながら近所の方と挨拶を交わすなどして交流出来る場を作れるよう努めている。	近隣からの入所が多く、散歩にでると本人の知り合いに会い挨拶が始まります。街灯がないことへの対策として自動販売機を置いたり、迷い猫を通じて近所の人たちとの親和が深まったエピソードもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて少しづつだが、ホームでの支援方法を伝えられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を行い市役所の方や主治医、ご家族に意見を伺い、運営に生かせるように心がけている。	行政、地域からのメンバーのほか、医師、看護師も列席していますが、家族の出席が伸びないのが残念です。町内会長からは、消防や温泉の設備情報はじめ、子ども神輿の練りを事業所経由とする応援もあります。	家族の出席率が伸びるための施策を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方には日ごろから入居者様のことや施設の事を伝えて行くように心がけている。	地域包括支援センターからは緊急も含め保護依頼を5件受け、ガードしきったことから信頼関係が強固です。市役所には徒歩で出向ける距離で、担当者も運営推進会議に欠かさず足を運んでくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などを通して身体拘束の研修を行い、理解するよう努めている。	「4点柵はだめ」といったコンプライアンスを職員間で共有することを重視しています。また拘束の予防として「転倒にならないように」との合議もおこなっています。法人主導の虐待・不適切なケア、身体拘束チェックシートで省みる機会もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の研修を行い、全体会議にて話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修は今後、全体会議で行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や利用者様に分かりやすく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの結果を掲示し、運営に反映出来る様に努めている。	日常的に車いすを利用する人はなく、また介護度は2.1ということもあってか利用者は壮健です。何気ない意向を伝えている様子も視認し、またフロアの観葉植物等美化については利用者の進言から整えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議を通じて、意見や提案を聞き繁栄させている。	職員は朗らかで落ち着きがあり「働きやすい」ことが立居振舞に現れ、離職率も低くチームワークが良い状況にあります。開設から1年となり基盤ができたものと認識しており、ボトムアップに向け発進し始めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの努力や勤務状況把握し、向上心を持てるようなアドバイスを出来るよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議では毎月研修を行い、外部には初任者研修や実践者研修など力量に合わせ研修の機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流はあまり行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント用紙を使いながら、ご本人が困っている事や要望を話しやすい環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時より、ご家族様が話しやすい雰囲気を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の話を聞きながら、必要に応じて他のサービスも利用して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、時には入居者様に学ぶこともあり、生活リハビリを通し共に生活しているとの意識を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られたときや、時には電話でも連絡を取りながら本人の事を相談し合い共に支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行き物に行ったりご自宅の近くまでに散布に行ったりしながら支援している。	絵画が趣味の利用者には職員が自宅まで出向いて道具を持ち込み身近に置いたところ、筆が復活した例もあります。畑仕事をしていた人は草取りに勤しみ、のこぎりを引いて椅子修繕に腕を振る人もいます。	絵を描く人が何人かいるため、事業所としても来期は水彩画をアクティビティに取り入れることを検討しているとのことですので、進捗を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に気を配ったり時にはスタッフが間に入り入居者様同士が楽しく・穏やかな関係でいられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅のケアマネージャーとも連絡を取りながら必要に応じ相談を受けたりフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を全部聞くことはできませんが日々の生活の中で出来る事を見つけていけるように努めていく。	入浴は1対1になることもあり、またリビングでの会話が役立つこともあります。状況確認・発見シート(人型)に職員が気づきを随時記入することになっていて、シートいっぱいにかかれた情報も書面確認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に情報収集をして、スタッフ同士共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにあった出来る事を毎日の日課として掃除 お米とぎ洗濯干しを行ってもらえるよう努めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でサービス担当者会議を開催しスタッフでの話し合いや面会時にご様子などを伝え意見を聞くように努めている。	法人全体でプランの精度を上げるよう研修会があります。アセスメント、モニタリング、プランが3ヶ月との短期でひとくくりとなり、さらにそのブロックが連動して繰り返されるようにとの考えを以て執りおこない向上しつつあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り、ユニット会議で情報を共有し医療機関にも相談し見直しをしていくよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にあったサービスが出来るよう工夫し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩やなじみの店への買い物へ行ったりと本人様の状態を確認していくように心がける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の状態を家族・スタッフと共有し話し合いをして主治医に連絡・相談をしてその人にあった医療を受けられるよう努めている。	看護師単独と医師と看護師での往診、其々隔週2回ずつ、医療機関からの訪問は月4回あります。運営推進会議にも出てくださいる真摯な医師に恵まれ、すべての利用者が協力医に変更しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師訪問時に情報を伝え適切な看護ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は面会に行き医療機関とも情報交換をしていく。退院した際はすぐにアセスメントを行い支援方法を考えて対応していくように努めていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・家族・医療機関・スタッフと話し合いを行いその人にあった良い支援ができるようにしていくのが今後の課題である。	家族とは医療的措置が必要な場合はできないことは合意形成できており、書面も交わしています。ただし「医療の必要ない看取りであっても開設したばかりではリスクが大きい」として法人から未だ承認が得られず、ジャッジを待ちつつ研修開催は計画し、準備は怠っていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応の研修を行いスタッフ全員の周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をホーム全員で行い地域の消防にも連絡をして訓練を行っている。	新しい建物のため経年劣化もなく、法定訓練2回を実施しています。通報訓練は消防署と直接やりとりし、普段の日に点検の立入があったりと消防署との連携もあります。備蓄は1週間ほど備えています。	新設事業所のため、防署員の立ち合いの下訓練がより具体的になることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロアでのプライバシーの確保は出来ていないこともあるがスタッフが中に入り声かけを行いカバーしていくよう心がけている。	『写真等の撮影および撮影された写真等の使用に係る同意書』を契約時に交わしています。また電話での問い合わせは上位者になくようにルール化されているため、不用意な返答が外部に漏れることを防いでいます。	消耗品ボックスに個人名があったので、目隠しカーテンの設置など改善を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴をして、考えている事や思いはスタッフ同士共有していくよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせて嫌がる事はせずに行っていくよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日に着替えはご自分で選んでいただいている。着替えが出来ない方は一緒に服を選び一部介助していく。入居者の方が服を選びやすいよう整理整頓に心がけていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル配置やランチョンマット等で工夫をしてその時間が楽しむ事できるように努めていく。またお米ときなど下準備を一緒に行い作っている。	手作りした家庭的なメニューを職員もテーブルを囲んで冗談を言い合いながら楽しく食事の時間を過ごしています。ランチョンマットに消毒液を振り掛けることを役割のようにする人もいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を記入をして情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立に方もいるが、出来ない方は介助をして口をゆすいでもらい、また液体歯磨きの購入などの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニット会議で話し合いをして自立できるように努めていく。	尿意がまったくないという人がなく、大半が自らの意思でできています。歩行をはじめ何らかの介助が要るのであれば排泄チェック表をつけていますが、自立の場合は観察情報を介護記録に付しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、排便状況を確認し、また、体を動かす時間を作るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は、午後と決まっているので時間の希望は聞けていない状況。 1階・・曜日で入浴者を決めているが、入りたい方がいたら、自由に入る事ができるようにしている。 2階・・入浴者の決定はしていない	家庭にある一般浴槽の大きさですが、右麻痺、左麻痺にも対応できるよう可動式になっています。「自分でできるからいい」という人にはドアの外で待機しますが、通常は一人介助です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、本人の訴えがあったら静養をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は共有できるように記録にはさんである。服薬チェック表でも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニット会議・サービス担当者会議で話し合いをして工夫していけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合う事は出来ないが時間を作り、ドライブや家族に連絡をして協力してもらえるようにしていくのが今後の課題である。	好天であれば思い通りのドライブも良しとして十国峠といった地域の名所へと巡り、散歩は海蔵寺と名指しする人もいます。利用者の発意を職員が拾ってでかけた三津シーパラダイスでは海中にいるかのような仕組みを遊び合い、大いに笑う一コマもありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員がお金を所持は出来ていないが、本人様に聞いて欲しい物は購入している。お金を所持している方は確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の希望を聞いて電話の可、不可は確認している。手紙は自由に出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所や、電気のスイッチの位置が分からない方もいるのでテープなどを貼ってわかりやすくする。	通路には華やかな扇子が並び、踊り場には回想法にもつながる黒電話や木彫り人形がみられ、事業所の熱意が伝わります。朝の掃除では手すりを念入りにふきあげてくださる利用者もいて、1日2回の清掃と曜日ごとのポイント清掃で清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルの位置を工夫して安心して過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたもの馴染みのある物を持ってきて頂き第二の我が家になるよう心がけている。	クローゼットとエアコン、壁掛け式ハンガーが配されていますが、ベッドは自身のものです。8月は観光花火が一望でき、灯りを消して皆で鑑賞しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心して過ごせるように出来るところは行ってもらえるよう自立を促している。		